広報専門員コラム　第 79 回

「墨田区を好きになる職員手帳」完成！

区職員の自己啓発制度である「自主研究グループ助成」を活用して、「すみだの魅力発掘自主研究会」の皆さんが作成していた「墨田区を好きになる職員手帳」がついに完成しました。職員手帳作成の目的や工夫した点など、グループメンバーである保健予防課の渡川雅也さん、子ども施設課の津田菜希さん、職員課の中田智大さん、学務課の鎌倉麻衣さんにお話を伺いました。

広報専門員　　山田　格

―――なぜ、職員手帳の作成をテーマにしたのですか？

■渡川：「入庁する方の多くが、必ずしも墨田区出身ではないので、新人として覚えなければいけないことがたくさんあるのに、区のこともたくさん勉強しないといけない」、「少しでも早く、墨田区のことを知ってもらい、好きになってもらいたい」という想いで、研究テーマに選びました。

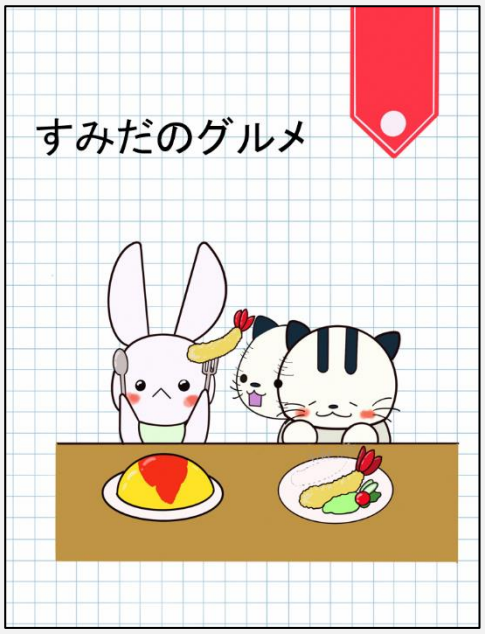
すみだの魅力発掘自主研究会のメンバー

―――まとめるにあたって、工夫した点は？

■津田：一番大切にしたのは、「自分たちが欲しかったものをつくろう」というコンセプトです。そのために、どういうコンテンツにするか皆で自由にブレインストーミングをすることから始めました。そこでまずは、メンバー同士で議論して、付箋シールで整理し、全体構成や取り上げるテーマを絞り込んでいきました。構成は、「区役所の仕事」と「区の知識」の２本柱にし、フロアマップ、区の基本情報、すみだの歴史と産業、すみだの観光地、すみだのグルメなど１３のテーマに整理しました。

―――記事づくりはどうやって進めたのですか？

■鎌倉：公式に原稿をお願いすると固い表現になってしまう懸念があったので、総勢２０名のメンバーを班分けして、人づてに情報を集め、分担して原稿案を書き上げました。メンバー同士の報告・発表用パワーポイントも製本時の仕上がりを意識して作成したので、冊子としてまとめる時にとてもスムーズでした。写真もなるべく自分たちで撮りましたし、イラストや地図もメンバーの自作です。



「すみだのグルメ」の表紙

4 階のフロア―紹介

―――何か参考にしたものはあったのですか？

■中田：以前に日野市役所が、「絶対に人に見せてはいけない職員手帳」を発行して話題になったことがあり、自分たちでも作ってみたいなと考えていました。日野市の職員手帳は、職員手帳という体裁ではありながら、むしろ職員以外の人たちに面白がってもらおうという意図を感じる内容でしたが、私たちは新入職員の皆さんに焦点をあて、安心できるお守りみたいなものと思ってもらえるように、あると何かと役に立つ内容とすることを大切にしました。

（参考）https://www.city.hino.lg.jp/shisei/profile/gaiyo/shokuintecho.html

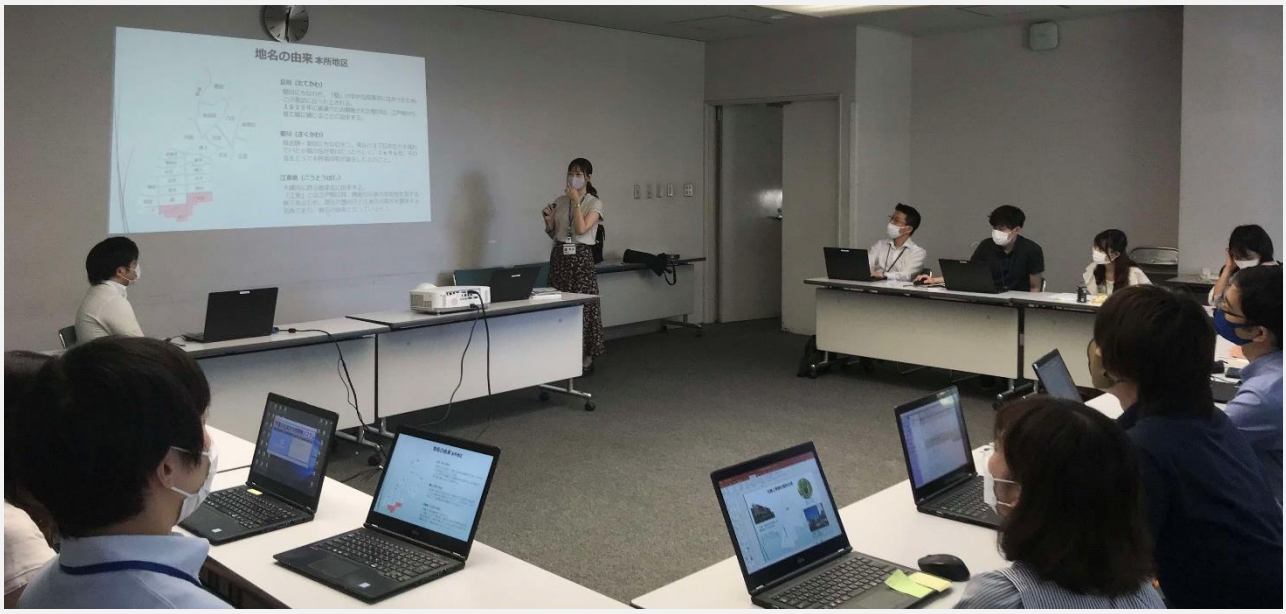
日野市役所「絶対に人に見せてはいけない職員手帳」関連ページのリンク

―――大変なエネルギーが要りますね。

■津田：大変というより、「楽しかった！」です。例えば、「すみだのグルメ」ページ作成にあたっては、班ごとに実際に食事をしての取材でした。まだ、コロナの心配もあったので、手指消毒やマスク会食をするなど感染対策にも十分気を付けましたが、久し振りに複数で食事をできて嬉しかったですね。どのページづくりも、新入職員の皆さんにとって分かりやすく楽しく読み進めてもらえるように、皆でワイワイ・ガヤガヤと意見を出し合って作りあげました。

―――これだけ多岐にわたって整理するには、幅広い知識が必要になりますよね。

■渡川：令和３年度からの２年間をかけて作成したのですが、最初の１年間はまずメンバーが区や区役所のことをもっと知るための勉強期間に充てました。既存の冊子や資料を読み込んだり、学んだことの発表会を催したりしました。また、民生委員など様々な活動をされている方々や区長に直接話を聞く機会を設けたりしながら学びを深めていきました。本来ならば、町工場の見学やさらに多様な方々のお話を聞く機会も持ちたかったのですが、コロナ禍でもあり、なかなか実現できなかったのが心残りです。



発表会の様子

区長講演会での集合写真

―――「自主研究グループ助成」制度について、教えてください。

■中田：職員の自己啓発を促進する制度で、区政の推進に役立つと認められた職員の自主的な研究グループ活動に対して助成が受けられるものです。原則として、本区の職員による５人以上のグループで構成されているなどの要件があります。活動は、昼休みや終業後などを活用することになりますが、２年間を限度に、講師料、教材費、会場費などの活動経費の補助が受けられる嬉しい制度です。今までの活動事例としては、「墨田区空き家問題対策研究会」、「墨田区メディア教育研究会」、「墨田区法務研究部」などがあります。

墨田区

センパイから新採職員へ
─職員手帳制作でエール

「みなさん、墨田区のことは好きですか？この職員手帳は、墨田区職員が墨田区をもっと好きになれるように、なってもらえるように、作成しました──」。こんな書き出しで始まる手帳を、墨田区の20代～30代の職員が新規採用職員のために制作した。タイトルは『墨田区を好きになる職員手帳』。A5判100㌻の手帳には、後輩へのエールと「墨田愛」がぎゅっと詰まっている。

手帳を制作したのは津田菜希さん(29)、渡川雅也さん(28)、中田智大さん(29)、鎌倉麻衣さん(35)ら職員有志による「すみだ魅力発掘自主研究会」のメンバー20人。津田さん、渡川さん、中田さんら数名は「区のことを勉強して後輩に伝えられないか」と考え、同区の自主研究提案制度に職員手帳制作を提案して採用された。入庁者に同区出身者は多くはなく、区のことを知ってもらうツールにできればと考えた。

メンバーを増やそうと募集したところ十数人が応じた。そのうちの1人で経験者として4月に入庁した鎌倉さんは、「入ったばかりだったが、活動を通して同僚とのつながりができた」と笑顔で振り返る。

研究会は2021年4月から1年間は区の観光や産業などをテーマごとにグループで調査・発表を行い、内容をブラッシュアップ。2年目は編集作業を行った。資料作成は自宅で行い、木曜日の昼休みを利用して発表などを行った。

手帳の章立ては▽フロアマップ▽区の基本情報▽歴史と産業▽観光地▽グルメ▽事務で使える基礎知識──で構成。手帳作成にあたっては職員にアンケートを実施し、回答を手帳に反映させた。

その一つが庁舎の「フロアマップ」だ。新採職員は各フロアに何課があるか分からない。そのため全課に「一言で言うならどんな課ですか」と質問して回答を加筆し、1階の窓口課から14階の観光課までの仕事紹介を立体のマップに落とし込んだ。完成手帳を見た先輩職員にも「新人の時に見たかった」などと好評だ。

アンケート結果は章末に掲載したコラムにも活用。「仕事をしていて楽しい瞬間」「仕事効率化術」など新人に役立つ情報を提供するとともに、読み物としても工夫をこらした。

「グルメ」にも力を入れた。庁舎周辺の飲食店人気ベスト7位とともに計40店舗を地図に落とし込んだ。津田さんは「お昼は吾妻橋を渡って台東区に行く職員も多いが、庁舎周辺にもたくさんある。新採職員が先輩とランチを楽しんでもらえれば」と期待を込める。

ランチ以外にもお酒を楽しめる店や、「グルメめぐり1日モデルコース」など、メンバーで食べに行き、撮影などを通じて親睦を深めた。「窓口職場のメンバーはハキハキしている」（津田さん）、「職種によって考え方が違う」（鎌倉さん）、「スカイツリーだけではない区の魅力を知ることができた」（渡川さん）など発見が多く、「手帳制作前より、区も職員も好きになった」（中田さん）など、メンバーにとって2年間は濃密な時間となったようだ。

制作にあたり、研究会が参考にしたのが19年に日野市の職員が発行した『絶対に人に見せてはいけない職員手帳』だ。市の魅力や職員の仕事を本音で紹介し、タイトルとともにちまたで話題になった手帳だが、あえて排他的なタイトルを付けた日野市とは逆に、タイトルにはストレートな思いをそのまま込めた。中田さんは「墨田区のことをもっと好きになってほしいので」と説明する。本文中には中田さんが描いたウサギとネコが場面に応じたポーズを取り、親しみやすさを増している。

先月中旬の新人研修の際、新採職員79人に手帳を配布した。早速、「先輩とランチに行きました」などの声が届いているという。

表紙には1733年の隅田川花火大会の始まりや1990年の本庁舎建設など、墨田区の大きな出来事を年代順にイラストとともに掲載しており、2023年は白紙とした。「これから皆さんで埋めていってください」──20人のセンパイから後輩たちへのエールだ。

職員手帳を手にする左から鎌倉さん、津田さん、渡川さん、中田さん

2023年08月04日　002面　01版　No．02

―――先日、「都政新報」の取材を受けたとのことですね。

■鎌倉：７月１８日（火）に「都政新報」の取材を受けました。本当はグループメンバー皆で取材を受けたかったのですが、スペース等の関係上、私たち４人で代表してお話をさせていただきました。８月４日（金）の新聞に掲載され、大きなスペースを取って写真入りの丁寧な記事にしてもらい嬉しく思っています。

（記事参照）※都政新報社に転載許可をいただいています

―――今回の活動で得たものは何でしょうか？

■津田：グループメンバーの年齢層は、ほとんど 20～30 歳代ですが、所属部門も１６部門と多岐にわたっていました。いろんな人とかかわりを持てたことが、宝物になっていますし、今後仕事をしていくうえでこの「人とのつながり」がきっと役立つ違いないと感じています。

「墨田区を好きになる職員手帳」は
こちらのデジタル行政資料室　で公開中

墨田区の魅力を発信するためには、職員自身がすみだの良さを理解して、愛着を持つことが不可欠です。
魅力を発掘しようと調べれば調べるほど奥深さや新たな発見があることもすみだの魅力です。この職員手帳をきっかけに、是非みなさんもすみだの魅力を発掘して発信していきましょう。